

蘇る炭焼きの情熱

NPO法人自然生クラブ 柳瀬敬
かつて戦時中、松根油や木質バイオマスでゼロ戦を飛ばそうとした人がいた。日本炭焼きの会の杉浦銀二先生もその一人だ。
戦後、炭焼きは燃料革命で衰退し、その技術も消えようとしたが、70年代、環境運動から炭が見直された。いまや杉浦先生は日本国中、いや世界中をとびまわり炭焼きを伝授している。戦争のためではなく、地球の環境を守るために情熱をかたむける。筑波山麓の薪炭林は、炭焼きにとって宝の山である。自然生クラブに

は杉浦先生の指導の下、ボランテニアの若者たちと作りあげた白炭の窯がある。「二十一世紀窯」と名づけられた窯に今年も火が入った。十日間連続して炭が焼かれる。生命現象でできた有機体が炭素に還元される。燃えれば二酸化炭素として大気中に放出される。炭になれば、炭素は母なる大地に戻っていく。



炭焼きする自然生クラブの人たち
*ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~jinenjo/>

筑波ふれあいの里の炭焼き講座
筑波山麓自然学校の大人対象講座として、炭焼きが行われました。つくば市の施設である筑波ふれあいの里（白井地区）では、年間を通して、自然や里山のくらしを学ぶ講座があります。宿泊棟コテージ、キャンプ場、染色・そば打ち施設があり、筑波山の自然の中でゆったりと過ごせます。



ドラマ缶窯から竹炭を取り出す

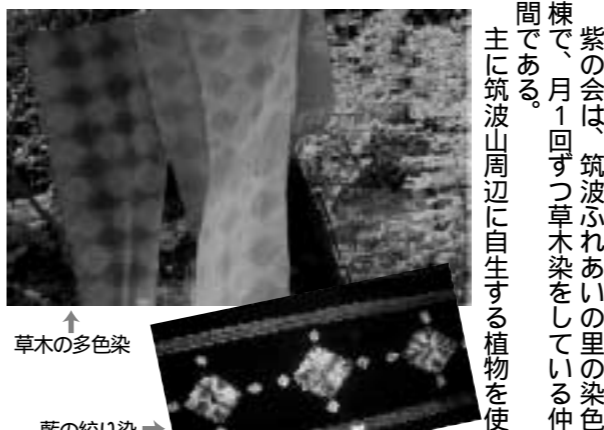
木を切って森づくり
NPO法人つくば環境フォーラム
里山の林は利用されなくなっても荒れています。つくば環境フォーラムでは、この冬、筑波山麓で3回の森づくり実践セミナーを行いました。
第1回は大きくなりすぎた雑木林の伐採。クヌギやコナラなどの雑木は、15〜20年ごとに切って炭や薪に使つことで、切り株から再生し、林が若返って動植物も多様になるのですが、今では多くの林が放置されています。



雑木の伐採風景
*ホームページ <http://www12.ocn.ne.jp/~tef298/>

草木染を楽しむ

紫の会会員 菊地つよい(白井地区)



紫の会は、筑波ふれあいの里の染色棟で、月1回ずつ草木染をしている仲間である。
主に筑波山周辺に自生する植物を使用

紫の会は、筑波ふれあいの里の染色棟で、月1回ずつ草木染をしている仲間である。主に筑波山周辺に自生する植物を使用
紫の会は、筑波ふれあいの里の染色棟で、月1回ずつ草木染をしている仲間である。主に筑波山周辺に自生する植物を使用
紫の会は、筑波ふれあいの里の染色棟で、月1回ずつ草木染をしている仲間である。主に筑波山周辺に自生する植物を使用

茜色は、万葉集にも詠われている。人間が最初に敬虔な祈りを捧げた色と言われる赤である。筑波嶺の裾野に育つ日本茜草で蘇った。
これからも、草木染をとおし、筑波山に親しみ、植物をいとおしみつつ、自然の美しさを草木染で表現したいと願っている。
ほかに、草木染一日体験サポートや草木染作品展などを行い、輪を広げている。
一日体験サポート
幼稚園児、小学生から大学生、子ども会、新人社員の研修会など、さまざまな会が行われている。ときには老夫から老婦へと染色体験プレゼントなど楽しい体験になる。宿泊者も多い。
草木染作品展
五月展 田井ミュージアムに於いてつくば市文化祭・芸術祭に参加
*お問い合わせ 029-866-0709 菊地

春を寿ぐ神事

豊作を祈願する「初午祭」

杉ノ木稲荷神社

去る2月5日、杉ノ木の稲荷神社で初午祭が行われました。稲荷神社は、小高い山の上にあり、午前10時半ごろ杉ノ木地区の方たちが集い、鏡餅、野菜、お神酒などの供え物をもって、お詣りしました。参道には「正一位稲荷大明神」の幟が立ち、早くも梅の花がほころび、春到来を感じさせました。

杉ノ木稲荷神社は、第二次世界大戦以前は、石嶋忠重氏宅が個人で祀る神社でした。忠重氏の先祖、石嶋駿河守は戦国時代に小田氏配下であり、小田氏が滅んだ折に帰農。忠重氏によれば、「その時に稲荷神社を祀ったのでは」とのこと。稲荷神社のほか、杉ノ木の田んぼのなかに、かつては雷宮を祀る塚があり、松が目印になっていたそうです。

(取材・編集部)



初午のお供え

幟の立つ参道

弁財天の「福来御種銭」
飯名神社総代 鮎川隆雄
「白井の弁天様」で親しまれる飯名神社。旧暦正月の初巳に行われる例祭が、本年は2月28日。この弁天様の祭事は、一風変わっている。



飯名神社の福来御種銭

初めてお参りする方は、種銭と称する「福来御種銭」を借り受け、御守りと一緒に自分の財布に入れておく、財を成すという。

最初5円とか50円等任意の金額を社務所に申し出て、神社からその金額の種銭と「福来御種御守」を頂く。それを一年間自分の財布に入れておき、翌年の祭事の時、借り受けた種銭額の「倍の金額」を奉納し、その奉納額と同額を種銭として頂き、年々倍の額に増加するという(最高額500円)。神との信頼関係で成り立つ神事である。祭は早朝から日没まで。



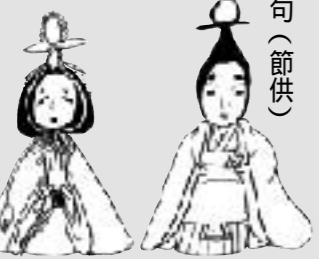
2.3月

すそみ歳事記

お話し 櫻井誠さん

聞き手 里山建築研究所 居島 上野

- 3日 2月 節分
大豆の茎に差した鯛の頭、ヒイラギを一組にして用意し、玄関や倉庫の入り口に差す。鬼が来ないように炒った豆を保存しておいて、夏の初雷の時に雷除けとして食べる。
- 5日 初午
スミツカリと赤飯(炊きおこわ)を稲ワラに入れて祠の屋根に上げ、お稲荷様をお祀りする。
スミツカリ(大根人参を鬼おろしでおろし、年越し用のいり豆、油揚げなどを酢、砂糖・醤油で調理する。)
- 8日 こと八日(笹神様のお祭り)
長い竹の棒を屋敷の屋根に立てかけて、逆さにした目籠をのせ、邪気を祓ふ。
12月8日にも行われる。
- 3日 3月 節句(節供)
18〜24日 彼岸(至彼岸)
七日間のうち、農休日(中日)の一日だけ、「春の彼岸で夜なべ(夜業)明け」



絵：櫻田万里(田井小学校5年)

春の筑波は、梅と、いい宿...

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 筑波温泉ホテル
029-866-0521 | 筑波山ホテル青木屋
029-866-0311 |
| 筑波山江戸屋
029-866-0321 | つくばグランドホテル
029-866-1111 |
| 彩香の宿一望
029-866-2222 | 筑波山京成ホテル
029-866-0831 |

筑波山旅館組合青年部 <http://www.tsukubasan.com/>